

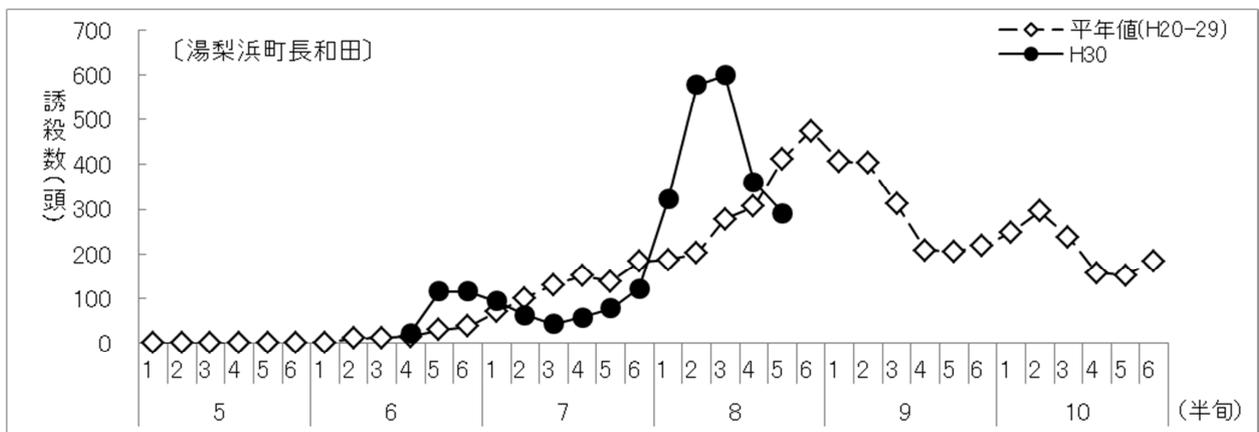
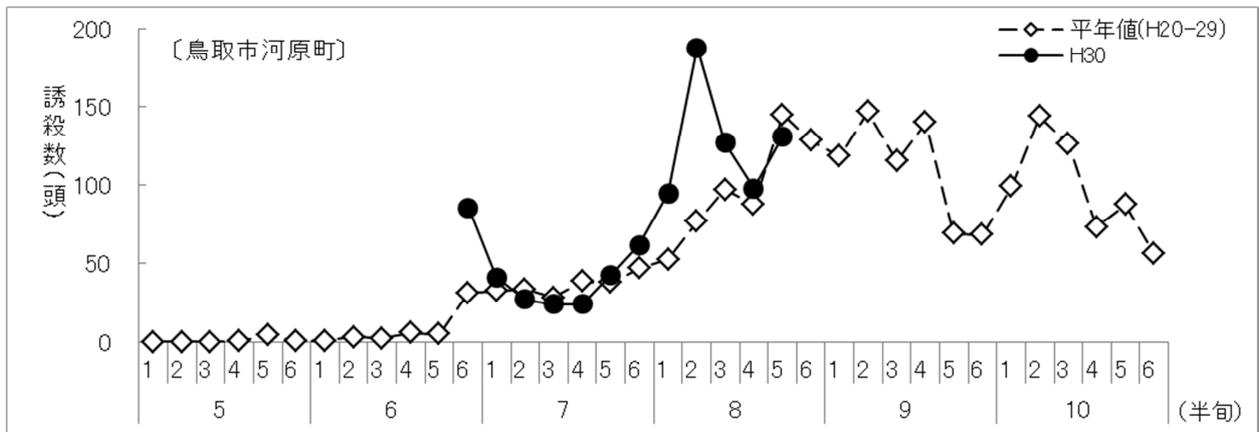
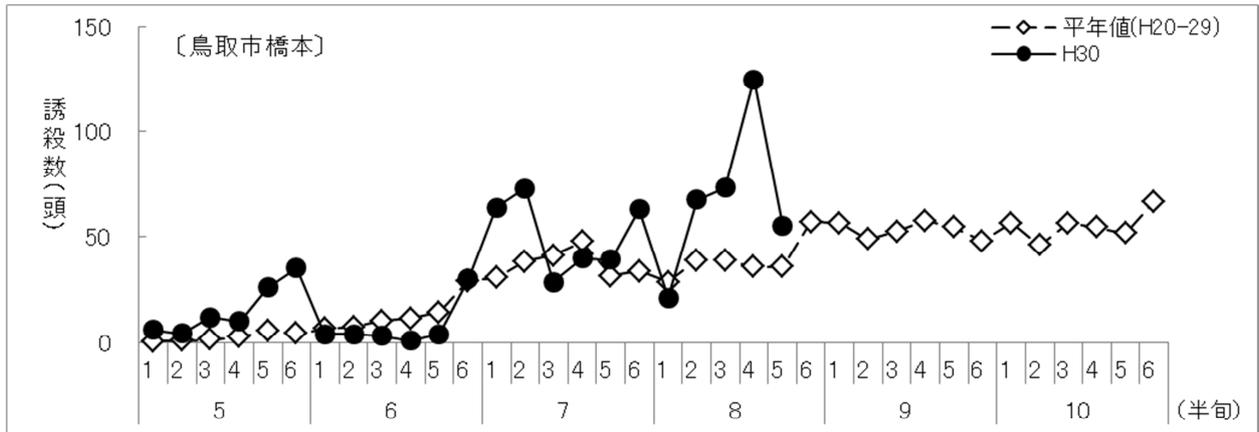
平成30年度病害虫発生予察指導情報  
対象病害虫：ハスモンヨトウ（ダイズ、野菜）

平成30年9月3日  
鳥取県病害虫防除所

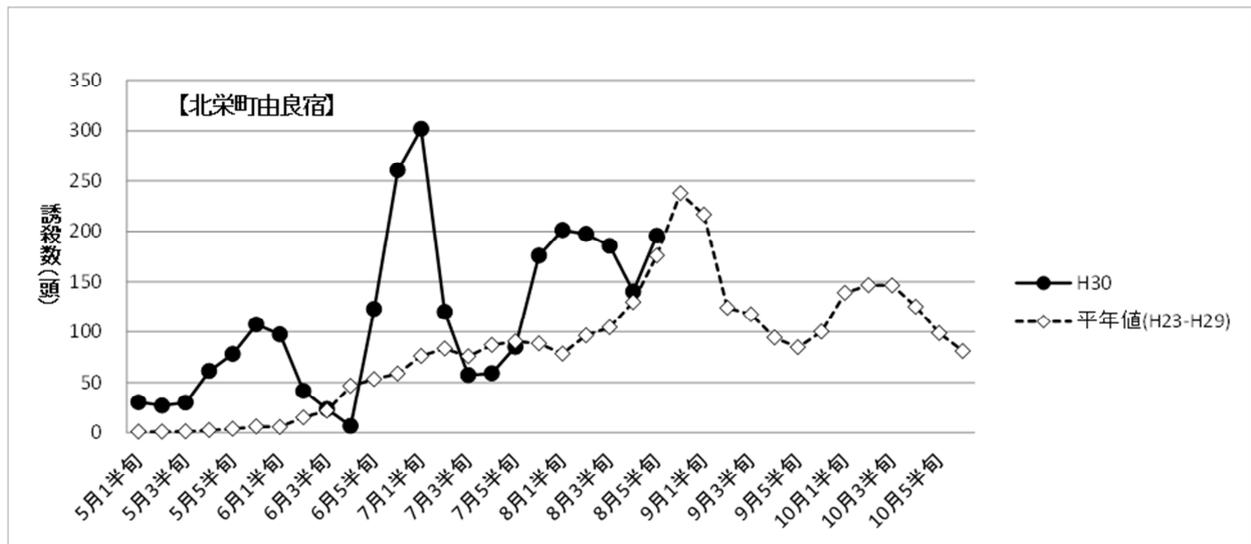
1 発生状況

(1) 8月第5半旬現在、フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数は、平年よりやや多い。フェロモントラップの誘殺ピークは8月中旬ごろと予想される。

【農試調査】



## 【園試調査】



- (2) 8月下旬現在、巡回調査定点のダイズほ場における発生は平年並である（発生ほ場率：58.3%、平均白変カ所数：0.6カ所/a）。ほ場での発生の主体は若齢幼虫～中齢幼虫であり、今後、食害が増加すると予想される。
- (3) 8月下旬現在、キャベツ、ブロッコリーほ場では寄生株率0.3%（平年：2.3%）、発生ほ場率8.3%（平年：27.5%）であり、発生量はやや少ない。卵塊の寄生が確認されており、今後、被害が増加する可能性がある。

## 2 防除上注意すべき事項

### (1) ダイズ

- ア 若齢幼虫の加害によって発生する白変葉の早期発見に努める。これまでにチョウ目害虫の食害を受けているほ場では、特に注意が必要である。
- イ 防除の目安は、1 a 当たりの白変カ所数5カ所以上とする。
- ウ 若齢幼虫に対する登録農薬の効果は高いが、齢期が進むと防除効果が低下するため、散布適期を失しないようにする。なお、中齢～老齢幼虫が混在する場合は、ジアミド系殺虫剤を散布する。

### (2) 野菜

- ア 薬剤の感受性が高い若齢幼虫（体長1 cm以下）のうちに防除を行う。食害痕がみられはじめる頃が防除適期である。9月～10月の発生に注意する。
- イ 食害痕は不整形の白斑となり、さらにかすり状に透けて見える。はじめ卵塊から孵化した幼虫は集団で産卵場所やその周辺にとどまり、葉の表皮を残して葉肉部を食害する。ほ場内を観察し、食害痕の目立つ株に注意する。
- ウ 食害痕および若齢幼虫の発生が見られた場合には、病害虫防除指針等を参照し薬剤防除を行う。